



第92期 中間報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成29年9月30日



**ダイジェット工業株式会社**

証券コード：6138

## ● 株主の皆様へ



代表取締役社長 生悦住 歩

株主の皆様には、平素は格別のご支援を賜わりまして、ありがとうございました。誠に厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループ第92期第2四半期（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）の事業の概況および四半期決算についてとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

平成29年12月

### 事業の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧州諸国・米国・中国を中心とした設備投資・個人消費の増加を背景に景気は緩やかな回復基調で推移し、また、我が国経済におきましても、製造業における輸出増加や堅調な企業収益に伴う雇用情勢・設備投資の改善により緩やかな回復傾向が続きました。

こうした中、当社グループにおきましては、欧州最大の国際金属加工見本市である「EMO」をはじめ、国内外の主要な見本市に出展したほか、国内各地で行われるプライベートショーなどにも積極的に出展し、商品PRや販売促進活動を行うとともに、得意分野である金型高能率加工用工具においても新商品を追加し、売上の増大を図りました。

連結売上高は、前年同期比3.2%増の4,839百万円となりました。このうち国内販売は前年同期比1.7%減の2,687百万円となり、輸出は同9.9%増の2,152百万円となりました。輸出の地域別では、北米向けが前年同期比9.4%増の454百万円、欧州向けが同3.5%減の516百万円、アジア向けが同16.4%増の1,147百万円、その他地域向けが同22.4%増の350百万円となり、この結果、連結売上高に占める輸出の割合は、前年同期に比べ2.7ポイント増加し44.5%となりました。

製品別では、焼肌チップが前年同期比8.2%減の604百万円、切削工具が同6.4%増の3,548百万円、耐摩耗工具が同0.8%増の677百万円となりました。

収益面では、工場稼働率の低下により売上原価が上昇し、連結営業利益は前年同期比62.0%減の71百万円となり、経常利益は同4.0%減の133百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同2.8%増の75百万円となりました。

なお、当期の中間配当につきましては、総合的に判断し、まことに申し訳ございませんが、見送りとさせていただきます。

### 今後の見通し

わが国産業界におきましては、企業収益や雇用環境は改善傾向となり、個人消費に持ち直しの動きが見られるなど緩やかな回復傾向が続いておりますが、一方で国際政治情勢の不安定化や地政学リスクの高まりによる販売や為替等への影響、さらには資源価格の上昇懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループといたしましては、国内外において注力商品の販売拡大を図るため、海外においては拠点の整備・確立を進め、国・地域など市場ニーズに沿った商品展開や海外ネットワークの拡充により競争力をさらに高め、国内においてはサービス体制の拡充と新規受注獲得に向けた全社のバックアップ体制を整備してまいります。

また、資源相場や為替等による原材料価格の変動リスクや原価の上昇リスクに対し、徹底した原価低減を行い、新工場建設も含めた工場再編によるライン化・自動化を進め、製造工程の合理化によるリードタイムの短縮や技術改善にも取り組み、生産性を高めて収益性の向上につとめてまいります。

さらに、新製品開発におきましては、「高速・高能率・高精度」をキーワードとして、世界市場を見据えた工具の開発から市場投入までのスピードアップを図るとともに、革新的なオリジナル商品、コア商品の開発を進め、市場およびユーザーニーズに応じた提案型商品の開発を推進し、新材種や新技術を用いた高付加価値製品の開発にも注力してまいりたいと存じております。

こうした状況から、当社グループの第92期連結業績予想は、当初の見込み通り、売上高は前連結会計年度比2.0%増の9,700百万円、営業利益は同33.2%増の480百万円、経常利益は同33.8%増の480百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は4.5%増の330百万円を予定しております。

一方、企業の社会的責任を自覚し、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を図り、コンプライアンス体制の整備および運用につとめるとともに、環境保全活動にも積極的に取り組み、引き続き社会貢献にもつとめてまいります。

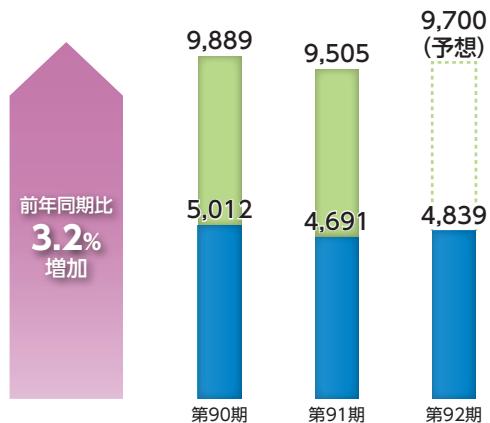
株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# ● 連結決算ハイライト

## ▶ 売上高

(百万円)

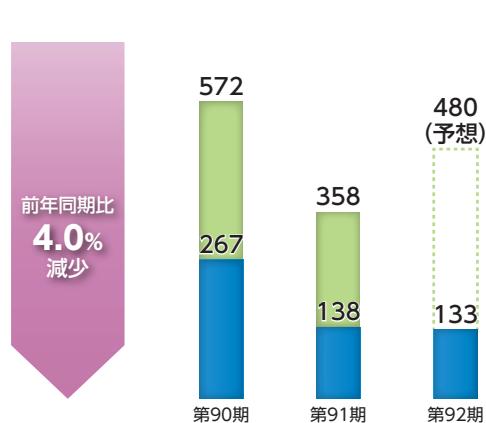
■ 第2四半期 ■ 通期



## ▶ 経常利益

(百万円)

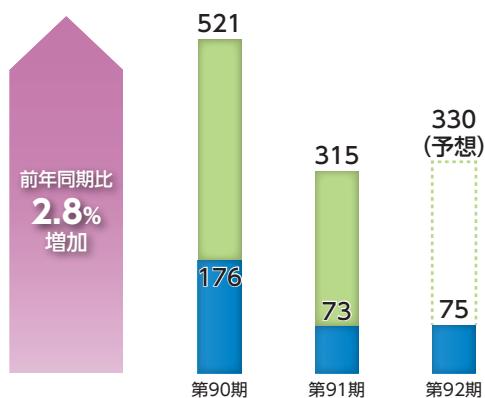
■ 第2四半期 ■ 通期



## ▶ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(百万円)

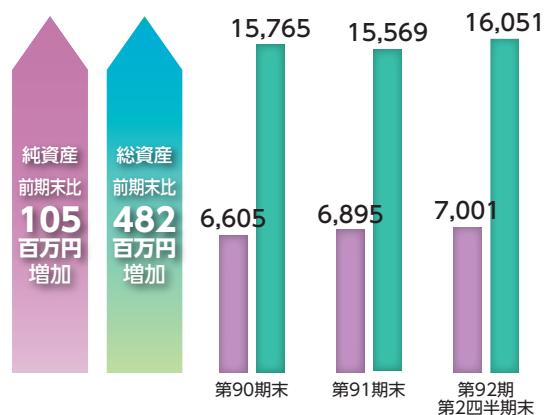
■ 第2四半期 ■ 通期



## ▶ 純資産／総資産

(百万円)

■ 純資産 ■ 総資産



## ● トピックス

### 環境調和製品の開発

当社は、地球環境の保全、汚染の予防を認識し、循環型社会の視点（3R: Reduce, Reuse, Recycle）に立った事業活動を展開しております。製品開発においては平成19年度に始まった超硬工具協会（現・日本機械工具工業会）の「環境調和製品認定制度」に積極的に参加し、当事業年度もこれまでに4点の新製品が認定され、認定数は会員最高となる通算66点（平成29年10月現在）となりました。

当社では今後ともより一層環境に配慮した製品開発を推し進めてまいります。



環境製品認定ラベル

### 【平成29年度認定の主な環境調和製品】

#### ■ 『アルミ用Sヘッド』

オール超硬シャンクアーバ「頑固一徹」に取り付け可能なソリッドモジュラーヘッド。アルミニウム合金の加工に最適な刃先形状を採用し、切れ味に優れ高精度加工が可能。また、3枚刃・各刃クーラント穴付きにより、切りくず排出性も向上。



アルミ用Sヘッド

#### ■ 『エクストリームダイメイト』

難削材対応のラジラスカッタ。インサートは黒皮級の両面8コーナ仕様により非常に経済的。独自のヘリカル切れ刃により切れ味と刃先強度を兼ね備え、高効率で長寿命な加工を実現。



エクストリームダイメイト

## 新製品

当事業年度上期におきましては、主力の金型加工用工具を中心に既存製品のバージョンアップならびに新製品の開発を進めました。主な新製品は次の通りです。

### ■ 『QMミルミラーインサート』

刃先交換式小径多刃工具「QMミル」に、仕上げ加工に対応した「ミラーインサート」を追加。仕上げ専用の研削級により高精度な加工が可能。インサート材種は、汎用材種「JC8015」および高速加工も可能な高硬度材用新材種「DH102」を採用。当インサートのラインナップ追加により、荒から仕上げ加工まで1つのホルダで行え、また、多刃工具のためソリッド工具以上の加工能率を実現。



QMミルミラーインサート

### ■ 『マックスマスター』

低抵抗小型3次元インサートを使用する高能率荒加工用工具。インサートは両面4コーナと従来品比2倍のコーナ数で経済的。刃先形状の最適化により刃先強度と切りくずコントロールを両立しさらなる高送り加工を実現、切りくず排出量にも優れる。



マックスマスター

### ■ 『TAタイラードリル』

幅広い用途で使用できる、先端角が180°フラットの刃先交換式ドリル。ソリッドでは高コストとなる太径サイズをインサートのみで工具交換できるため経済的。通常の座ぐり・穴あけだけでなく、傾斜面や交差穴も下穴なしでノンステップ加工が可能。新インサート材種「JC7550」の採用および独自の内部給油方式によりプリハードン鋼やステンレス鋼でも長寿命を実現。



TAタイラードリル

# ● 四半期連結財務諸表（要旨）

## ■ 四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 平成29年3月31日	当第2四半期 連結会計期間 平成29年9月30日
<b>1 資産の部</b>		
流動資産	8,158,280	8,685,864
固定資産	7,410,938	7,365,982
有形固定資産	5,391,794	5,173,658
無形固定資産	66,619	53,182
投資その他の資産	1,952,523	2,139,141
資産合計	15,569,219	16,051,847
<b>2 負債の部</b>		
流動負債	3,680,261	3,883,840
固定負債	4,993,711	5,166,885
負債合計	8,673,972	9,050,726
<b>3 純資産の部</b>		
株主資本	6,470,442	6,427,249
資本金	3,099,194	3,099,194
資本剰余金	1,703,329	1,703,329
利益剰余金	1,712,147	1,669,054
自己株式	△44,229	△44,328
その他の包括利益累計額	424,804	573,870
純資産合計	6,895,246	7,001,120
負債純資産合計	15,569,219	16,051,847

## ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（単位：千円）

	前第2四半期 連結累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	266,462	775,919
投資活動によるキャッシュ・フロー	△723,075	△154,450
財務活動によるキャッシュ・フロー	605,439	△56,990
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,067	8,742
現金及び現金同等物の増減額	144,759	573,220
現金及び現金同等物の期首残高	1,150,002	1,323,040
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,294,762	1,896,260

## ■ 四半期連結損益計算書

（単位：千円）

	前第2四半期 連結累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
<b>4 売上高</b>	4,691,948	4,839,799
売上原価	3,211,883	3,429,637
売上総利益	1,480,065	1,410,161
販売費及び一般管理費	1,292,537	1,338,912
<b>5 営業利益</b>	187,527	71,248
営業外収益	34,309	86,924
営業外費用	83,231	25,086
<b>5 経常利益</b>	138,605	133,086
特別利益	967	16
特別損失	688	4,828
税金等調整前 四半期純利益	138,884	128,274
法人税、住民税及び 事業税	62,921	71,521
法人税等調整額	2,164	△19,082
四半期純利益	73,798	75,836
<b>5 親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	73,798	75,836

### 【四半期連結財務諸表（要旨）】ポイント

#### ■ 四半期連結貸借対照表

**POINT 1** 資産の部⇒482百万円増加

【流動資産 527百万円増加】

現金及び預金573百万円、受取手形及び売掛金251百万円各増加、商品及び製品348百万円減少。

【固定資産 44百万円減少】

減価償却費の計上により381百万円減少、設備投資の実施166百万円、株価上昇による投資有価証券の評価額181百万円各増加。

**POINT 2** 負債の部⇒376百万円増加

【流動負債 203百万円増加】

支払手形及び買掛金105百万円、電子記録債務169百万円各増加、短期借入金95百万円減少。

【固定負債 173百万円増加】

長期借入金162百万円増加。

**POINT 3** 純資産の部⇒105百万円増加

【株主資本 43百万円減少】

配当の実施118百万円減少、親会社株主に帰属する四半期純利益75百万円増加。

【その他の包括利益累計額 149百万円増加】

株式の時価評価等による増加。

#### ■ 四半期連結損益計算書

**POINT 4** 売上高⇒前年同期比3.2%増加

国内は前年同期比1.7%減少、海外は欧州向けが減少となったものの、北米・中国向けが増加して同9.9%増加。海外売上比率は同2.7ポイント増加し、44.5%へ上昇。

**POINT 5** 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益

工場稼働率の低下による売上原価の上昇により、営業利益は大幅に減少したものの、円安による為替差益の計上等により前年同期並みの水準まで利益を押し上げ。

## ● 株式情報 (平成29年9月30日現在)

### ■ 株式の状況

発行可能株式総数 80,000,000 株  
 発行済株式の総数 29,929,996 株  
 株主数 3,067 名

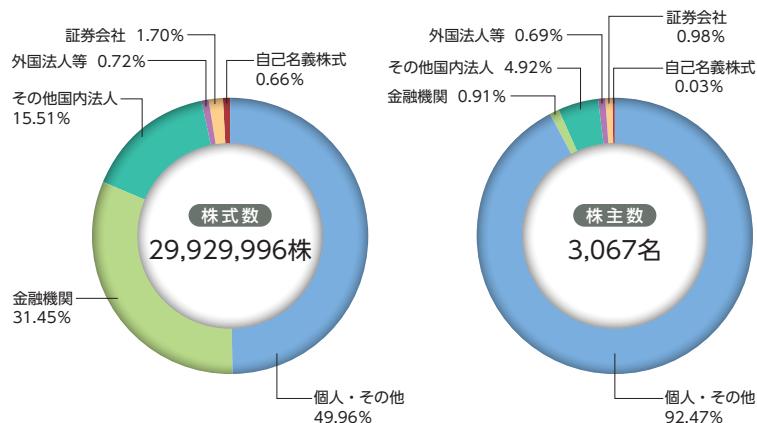
(注) 株式併合 (10株を1株に併合) に伴い、平成29年10月1日付をもって、発行可能株式総数8,000,000株、発行済株式の総数2,992,999株となっております。

### ■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ダイジェット取引先持株会	1,632	5.49
ダイジェット持株会	1,539	5.18
株式会社 みずほ銀行	1,476	4.97
生悦住望	1,333	4.48
株式会社 三菱東京UFJ銀行	1,244	4.18
明治安田生命保険相互会社	855	2.88
共栄火災海上保険株式会社	827	2.78
株式会社 不二越	700	2.35
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	627	2.11
生悦住歩	620	2.09

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 持株比率は、自己株式 (197,996株) を控除して算出しております。

### ■ 株式の分布状況



## ● 会社情報 (平成29年10月1日現在)

### ■ 役員状況

代表取締役会長	生悦住望
代表取締役社長	生悦住歩
常務取締役 経営企画部長	古林雄一
取締役 総務部長	稲田伸一郎
取締役 技術部長	中田敏也
取締役 経理部長	安藤信夫
取締役 常勤監査等委員	生悦住英臣
取締役(社外) 監査等委員	小島康秀
取締役(社外) 監査等委員	中村悟

### ■ 事業所および主要な子会社等

#### 国内拠点

- 本社 (大阪市平野区)

#### 販売拠点

- 東京支店 (埼玉)
- 南関東営業所 (神奈川)
- 北関東営業所 (群馬)
- 仙台オフィス (宮城)
- 名古屋支店
- 三河営業所 (愛知)
- 浜松オフィス (静岡)
- 大阪支店 (大阪市平野区)
- 富山営業所
- 広島営業所
- 九州営業所 (福岡)

#### 生産拠点

- 大阪事業所 (大阪市平野区)
- 三重事業所 (伊賀市)
- 富田林工場 (大阪)

#### 海外拠点

- 上海駐在員事務所 (中国)
- 広東駐在員事務所 (中国)
- 大連支所 (中国)
- 武漢支所 (中国)
- 成都支所 (中国)
- バンコク駐在員事務所 (タイ)
- ムンバイ駐在員事務所 (インド)

#### 主要な子会社等

- DIJET INC. (米国)
- DIJET GmbH (ドイツ)
- 黛杰漢金 (滄州) 精密模具有限公司 (中国)

● 事業所 ● 子会社 ● 関連会社

## ■ 会社の概要 (平成29年9月30日現在)

社名	ダイジェット工業株式会社 (DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.)
設立	昭和25年12月
資本金	3,099,194,104円
従業員数	537名 (うちパート等113名)
事業内容	超硬合金、超硬工具の製造販売
ホームページ	<a href="http://www.dijet.co.jp/">http://www.dijet.co.jp/</a>

## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日

公告方法 電子公告 <http://www.dijet.co.jp/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人  
および特別口座  
の口座管理機関  
同事務取扱場所  
東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

郵便物送付先  
および連絡先  
〒168-8507  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話番号 0120-288-324 (フリーダイヤル)

(株主に関する)  
各種お手続き  
届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更、単元未満株式の買取・買増請求などにつきましては、口座開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主様は、上記の特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行株式会社))へお届出ください。

なお、未受領配当金(ゆうちょ銀行の払渡期間経過後)のお支払いにつきましては、上記の株主名簿管理人(みずほ信託銀行株式会社)までお申出ください。

## 単元株式数の変更および株式併合のご案内

当社は、平成29年6月28日の第91回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数の変更(1,000株を100株)および株式併合(普通株式10株を1株に併合)を実施しました。

なお、株式併合により、ご所有の株式数は、併合前の10分の1となりますが、株式市況の変動など他の要因を除けば、株式併合による当社株式の資産価値に変動はありません。

また、株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、一括して処分し、その代金を端数の生じた株主様に対して端数の割合に応じて別途ご案内のうえ分配いたします。

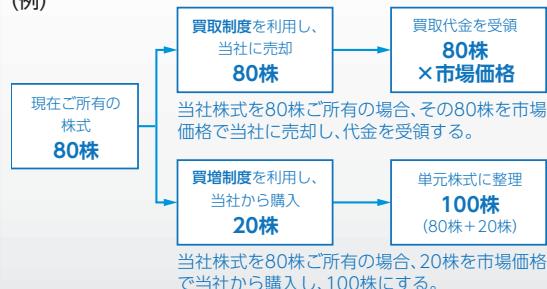
## 単元未満株式の買取・買増請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、100株未満の単元未満株式は市場で売買取ることができません。

単元未満株式をご所有の株主様は当社に対して単元未満株式を売却する(買取請求)、または単元株式となるよう不足する株数の株式を当社より購入する(買増請求)ことができます。

お申出先につきましては、左記の株主メモをご参照ください。

(例)



DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.

〒547-0002

大阪市平野区加美東2丁目1番18号

TEL.06 (6791) 6781 (代表)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。